学校だより
しらかわ

飯豊町立添川小学校
2019. 7. 11
いきいき　なかよく　ほこりを持って　第７号

生き物たちが教えてくれること
命に触れて命を知る

山形県の教育目標の一つに「いのちの教育」があります。しかし、「命とは何か」と聞かれて明確に答えられる人はいないのではないでしょうか。正体がわからないのに、誰もが「かけがえのないもの」「大切なもの」「失ったら二度と返らないもの」と認識しています。それを私たち大人は子ども達に教えなければなりません。どうすればいいのでしょうか。

私たちが子どもの頃（今５５歳ですが）は、数世代の家族が同居するという家が多くありました。医学も今ほど発達していませんでしたから、日本人の寿命も今よりは短かったと思われ、子どもが「家族の死」を体験する機会も多かったように思います。

また、動物も身近なところにいて、ウシを飼う家、ニワトリを飼う家、ウサギを飼う家などもあり、昨日まで世話をしていたのに、今日は肉にされて食べる等ということもありました。

兄弟が多い家庭では、弟や妹の誕生を経験する回数も多かったように思われます。また、亡くなった家族の遺影に手を合わせたり、供え物をしたりしながら、世代を超えた家族とのつながりも知らず知らずに知る場面もありました。

当時の子どもは、こうした経験をする中で、「命」というものを「感覚的に」認識し、その大切さに気づいていたように思います。このように考えると、家族が共に暮らし、身近なところで、命が「失われる」「産まれる」場面を体験することはとても重要なことだとわかります。

ところが、今はどうでしょう。世の中の変化とともに家族のあり方も変化し、人の寿命も延びて、動物との共存も少なくなって、「命」に接する場面が少なくなっているように思います。そうした状況を少しでも補う事を考えると、今できる範囲での「生き物との触れ合い」は非常に重要です。私は、子どもが、虫、魚、植物、動物に触れる場面をたくさん作りたいと考えています。飼ってかわいがったり、死んだことを悲しんだり、産まれたことに感動したり、時には命を奪って食べたり・・・・そうした体験の積み重ねこそが、子ども達に、命が「かけがえのないもの」「大切なもの」「失ったら二度と返らないもの」であると認識させるのに有効だと考えるからです。

今年度、学校では、漁業協同組合さんからお声がけいただき、１・２年生が「サクラマス」の放流を体験させていただきました。１・２年生は、生活科の学習でザリガニに夢中になっています。全校児童で、学校林に「実生」を植える活動もしました。

メディアが身近にあふれた現代、放っておけば子どもは、ゲームの世界に引き込まれます。YouTube に引き込まれます。その時間の一部を、家族みんなで「生き物とふれあう時間」に代えてみてはいかがでしょうか。「虫採り」「釣り」「畑作業」など、身の回りにできる事はたくさんあります。

「田の草取り作業」 実施

７月１日（月）、５・６年生が昭和地区農地・水環境保全協会の方々にご指導いただきながら田の草取り作業を行いました。
５月３０日に植えた苗は順調に育っています。どれがイネで、どれが雑草なのか見分け方を教えていただいて、草取りの作業を体験しました。また、かき混ぜることで、土に酸素を含ませる効果や、水を濁らせて草が生えるのを抑制する効果もあることを学びました。

８月初めには、田を使っての環境調査も行われます。中干しや肥料散布、農薬散布などの作業はしませんが、稲刈りまでの間、自主的に田の様子を観察する約束になっています。また、余ったイネを学校にもらってきて、他のイネとの成長の違いを観察してみることにしました。

米作りを体験し、当たり前に食べている米が、実は、大変な苦労と工夫の末に作られていることを知るのは大切な学習です。地域の皆様、いつもありがとうございます。

仲良く交流　一緒に学ぶ
手ノ子小学校　第二小学校のみんなと

小規模校の場合、ボール運動で行う試合形式のゲームなど、人数が少ないために経験することが難しい学習があります。

また、飯豊の場合、小学校卒業後は基本的に飯豊中学校への進学となるため、早くから顔見知りになって、仲良く活動したり、刺激し合ったりすることは、進学時の心理的な負担を軽減する事につながるのです。

６月２７日（木）には、３年生同士の交流を実施。手ノ子小学校、第二小学校の子ども達が添川小に来て、体育の授業で「プレルボール」という球技を行いました。また、手ノ子小学校の４年生とは、山形見学旅行に一緒に出かけ活動してきました。スポ少の活動などで既に顔見知りの場合もあるようですが、集合学習をきっかけに友達になったということもあり、有意義な時間でした。